

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（2月定例会）会議録
開催日時	令和4年2月25日（金）午後2時から午後4時まで
開催場所	オンライン開催 （事務局・議長は田無第二庁舎3階 会議室）
出席者	委員：高橋議長、河野副議長、伊尻委員、勝野委員、川原委員、黒羽委員 坂内委員、菅野委員、攝賀委員、長谷川委員、宮本委員 事務局：江藤社会教育課長補佐兼社会教育係長、野田主事
議題	<u>議 事</u> （1） 地域学校協働活動の現在の課題（けやき小学校・明保中学校）と改善案・提案について （3） 放課後子供教室基本方針について
配付資料	資料1 社会教育委員の会議（1月定例会）会議録（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会議内容

●令和4年1月の定例会議の会議録（案）について、承認する。

●議事について

議事（1） 地域学校協働活動の現在の課題と改善案・提案について

○事務局：下記のとおり説明

◆12月と1月の2回にわたり、ブレインストーミング法を用いて、地域学校協働活動の現在の課題に対する改善案・提案について話していただき、表にまとめた。

◆2月と3月の会議でこの表を完成形とするために削除や追加等の作業をしてブラッシュアップしていく。

○議長：何か質問等あるか。なければ表に関する気になる項目について意見をいただきたい。

○委員：研修会についてどのような研修なのかが気になるのと、既存の団体に理解していただくというところで、育成会に関しては毎月開かれている連絡会等で地域学校協働活動の説明をしていただければ良いのではないか。そして育成会は児童青少年課の管轄になるので児童青少年課にも理解を示していただく必要があると考える。

○委員：研修会を開くと情報共有等もスムーズに行えるのではないかと考える。

○委員：拠点場所についてだが、現在の表は2文に分かれていて分かりにくいのではないか。「学校の中に活動する場所を設け、その中で調整や連絡をする。」のようにまとめると良い。

○委員：3月の定例会までに文章化をするのであればそれまでに起草委員会を作ってその中で作業をしないと間に合わないのではないか。文章化は事務局がやる予定なのか。

○事務局：文章化は委員の皆様にご協力いただこうと考えている。起草委員会を開く予定はなかったが、起草委員会とは社会教育委員の中から何名か出席いただき、議論をし文章化をするよう

なものでよろしいか。

- 委員：そのようなものである。その中で文章化されたものを次回の定例会で精査していくことが望ましいと考える。
- 委員：改善と提案についてはブレインストーミングの手法の下、とりあえず、委員の皆さんと、多くの意見を出し合ったものである。実際に表を見ても現実的ではないものも列記されており、それらを詰める会を挟んで、文章化の作業に繋がると考える。
- 事務局：削る作業と、新たな改善案や提案があれば追加する作業は本日も行っていただき、先程委員からもあったように社会教育委員の中から数名選出された起草委員会を設ける方向でいかがだろうか。
- 議長：その方向でよければ、本日は削れるところは削り、新たな意見等があれば加えていく作業をして、そのうえで3月初めに起草委員会を実施しさらに精査し、3月の定例会へと進めていきたい。
- 委員：大学の授業を通して、大学生に部活動の指導を実施していただくというのは実現可能なのか。
- 委員：希望的な観測も含まれるが、教職を目指している学生が実際に行っている例はある。
- 委員：一定期間部活動を手伝ってくれる人はいるが、年間を通して安定的に顧問として毎回来てくれるような方を探すのは難しい。
- 委員：部活動指導員についてももう少し伺いたい
- 委員：全ての部活で指導員を導入したら予算は足りないが、現状として予算は余っている。それは、人材が不足しており、指導員の制度を活用できていないところがある。ただ、部活動を手伝ってくれる方は探せばいると思うが、地域に継続的な運営をお願いするのは難しい。
- 委員：実施校が増えると統括コーディネーターの負担が増えるということと、CSとの位置付けの整理のところについて伺いたい
- 委員：現在、地域学校協働活動を実施している学校には推進員が設置されており、推進員を束ねる統括コーディネーターが市の職員に1名いる。実施校が増えると推進員を総括する統括コーディネーターの負担も増えると考え。そのため今後統括コーディネーターについては複数人いると良いと考える。
- 委員：CSで話し合ったものを地域学校協働活動で実際に生かしていくと思うが、その流れについてより深く研究していく必要があるのではないかと考える。
- 委員：これから始める学校に関しては改善や提案ではなくて現状から伝える必要があるのではないかと。
- 委員：実施校の現状や事例と併せて提示するとより分かりやすいのではないかと。
- 事務局：実施校の事例紹介をしつつ、地域学校協働活動をこれからスタートする学校へ、何か課題等に直面した際の参考資料という形で提出するのはいかがだろうか。

- 委員：そうであるならば、文章化をする必要はないと考える。改善・提案の表現を手直しすれば表の方が見やすいように感じる。
- 事務局：表は活かしながらも、これまで報告事項として挙げていただいた2校の事例紹介を加えつつ、これから実施する学校に対して、課題が見えたときの補足資料として活用していただきたいということでまとめ上げるのはいかがだろうか。
- 議長：賛成の方は挙手を願いたい。⇒多数の同意を得る
- 事務局：起草委員会についてのメンバーは4名程で実施したいと考えるので、立候補を願いたい。  
⇒4名が決定  
起草委員会で資料を精査し、参考資料として提出する流れで運びたい。

## 議事（2）放課後子供教室の基本指針について

- 事務局：下記のとおり説明
  - ◆放課後子供教室についての概要を説明
  - ◆放課後子供教室基本指針は平成30年に社会教育委員の会議から提出された「放課後子供教室事業の今後の在り方について（提言）」に基づいて、作成したものである。
  - ◆学習機会の提供事業は18校中12校実施
  - ◆学童クラブとの連携をし、希望する児童が参加できる体制づくりを目指す。
  - ◆地域学校協働活動を通して多様な人材を活用する。
  - ◆サポートを必要とする児童等、全ての子どもたちの居場所づくりを目指す。
  - ◆新型コロナウイルス感染症対策を引き続き実施しながら進めていく。
- 議長：意見や質問はないか。
- 委員：学習の機会提供事業を実施できていない6校について、どうすれば広げられるかを深められると良い。
- 委員：実施校と実施できていない学校の差を解消できるとよいと考える。
- 委員：子ども子育て審議員の方でも非常に関心があるテーマとして挙がっている。
- 委員：放課後子供教室事業の取組の課題を共有しながら推進できると良いと考える。
- 委員：6校実施できていない要因を伺いたい。
- 事務局：実施できていない大きな要因は人材である。保護者でサポーターをしてくれる方は多いが、児童が卒業されるとサポーターを辞められる方も多い。現在新型コロナウイルス感染症を考慮し実施できてないが、放課後子供教室サポーター募集会をこれまで実施しており、こちらを上手く活用していきたい。
- 委員：人材の確保が重要であることを理解した。学校による違い、地域の違いをどのようにフォローアップしていくかを考えていく必要があると考える。
- 委員：実施できていない6校に対して、「いつまでに開始する」のような明確な期限を設けてアプローチしていかないと実施できないままになるおそれもあるのではないかと考える。
- 議長：推進をするうえで鍵になるのは組織であると考えている。市の方で放課後子供教室を運営する組織のサポートを手厚くしていくとよりよく推進できると考える。

**議事（3）その他**

次回会議について

3月25日（金）午後2時

場所 田無第二庁舎 5階会議室